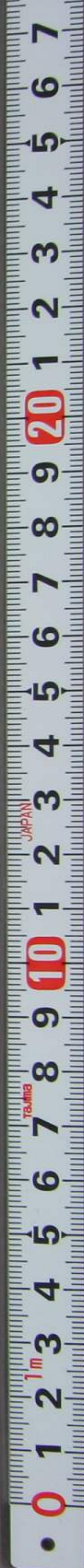




二  
景  
家

スメドリー方 達家之後  
子付マコビーン口 書簡之譯



414  
A 300  
2

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

東京小切方々、過日大火の場存へ新規の  
日本家屋建築ニ可相成ニ付、圖面或枚差  
出、大悦ニ存レ

右圖面を三等の家形を記し、置レ即第一  
等、第二等、第三等あり、第三等ハ卑  
賤の者不備へ、第二等ハ尋常の店高人ハ  
備へ、第一等ハ大商人或ハ廣く高用取組  
ハ者不備ハあり

石家形ハ通例住居致ハ日本家と能く相  
應致様繪取各園の内部ハ方今何を  
も日本家子備へ有之通リ障子、煮焚  
場、浴室等を備へ全く日本流不致様子念  
入書取中の尚又庭地並小寺ヶ所の并成  
両家ハ通角致ハ極道下置中ハ  
分界の壁ハ下条ハ中上通リ造家の則ハ  
倣ハ總而煉化石ヲ火災地震等ハ憂々

之様成丈堅固ハ造立相成度又前面  
分界の壁ハ突出ハ五ヒートヤ<sup>ハラ</sup>て護  
壁<sup>ベツト</sup>ハ屋上ハ出ること二ヒート六インチナリ此五ヒ  
ートの間隙ハ一家より他家へ火事ハ通若  
様餘程の防まこと可お成且座<sup>ミ</sup>座<sup>ミ</sup>上或ハ椽  
側の上を歩む如く沓花<sup>ミ</sup>日本の足具<sup>ミ</sup>ヲ  
甚以之苗<sup>ミ</sup>宜<sup>ミ</sup>又煮焚場毎<sup>ミ</sup>  
煉化石ヲお當の煙<sup>ミ</sup>出<sup>ミ</sup>造<sup>ミ</sup>凡て煙<sup>ミ</sup>

速に去り且石場所の火難を減しお  
成り事

外面の障子ハ通例の日本法の如くガラス障  
子を取ら内部の分界ハ通例の日本風を  
唐紙障子の方とし居外面の障子ハ圓中  
有は通戸を以て相違お取ら一昼夜中の障子  
の上より戸を閉ち錠栓を以て切し様  
お成り事

新道より此裏口の儀を其所の位置花ニ  
土地の廣狭より可申事  
壁の厚左の如し

地床	煉化石	武箇の厚
第一等	第一床	同
	二階床	同
	地床	同
第二等	第一床	同

壹箇半の厚

壹箇の厚

壹箇半の厚

壹箇の厚

第三等

地床 同 壹箇半の厚  
二階床 同 壹箇の厚

大圓は有之分界壁は小材を堅く置き且  
護壁を屋上に出ると武ヒートカハ大材  
ハハチヤ事

第二等第三等の家ハ圓面は引合は覽  
成り飾付ハ過方ハ通例の建家  
ハお備ハ事能くお方ハ可ヤ事

第一等の家ハ飾細工を増し用淡の場所  
兼ニ住居の場所善き下部屋黒色を調  
へる二重の土藏を備へ尚又屋根下の場所  
子廣を此儘を用ひ不ヤハ大切の場  
所を取失ひハ付屋根材の間を小二階ハ  
取上ハ此間ハ天窓を開き炎天の事ハ  
風入ルハ事

此度畫きまハ圓面ハ日本家を建替

以最上法を示し且方今日本家の建凡  
少従ひ内部に格別豪華致さず併煉  
化石造の壁を火防にお成様より造  
法を示し其後法承知置てり  
乍併建家の大小日本人へ配分お成り  
地面の大小より事なり圓面の家より  
大なり少くも事

建家の見込用の名其所の<sup>併</sup>大工煉化石

造方の遅速は大小関係に得共家数  
多分造るお成り家形は数等より有之  
得は割きも一様なり建形も定まり  
多分より有之の間坪を減し市を存  
愚案より第三等の見込費用は  
三千五兩位第一等ハ四千兩より五千兩位第一  
一等ハ七千兩より九千兩位と得共家数多  
分造る程建家入用現在五減し間一概ハ

是を例として新編事

未文ホリ加日本政府より私中互之趣花岡  
面を拝用ニおぬりて造家ノ私私ト手高信ニお  
成度左々成丈々勉勵解職掌お盡し  
予若又私才量々致し付産物は入用ニ  
右職任場へは致し十分の兼名事ノ致し  
すなり也

千八百七十二年四月

東京  
スメドリ

シトエ、マコロイン君

